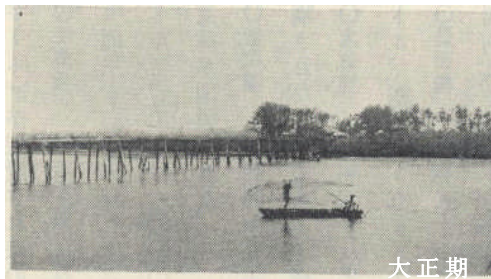


## 江東橋

いすみ市で最長の橋

江戸時代、長者町は房総東街道（今の茂原街道とだいたい同じ）の中継地としてとても賑わっていましたが、夷隅川には橋はかけられておらず、人馬は渡し船を利用しました。渡し場は、桑田・椎木・福原・中原・和泉などにありました。

明治初期に、江場土に木橋が架設されましたが、右の写真のように人がかろうじて渡るだけの、いかにも頼りない橋に見えます。



昭和8年に木橋は架け替えられました。川の水はとてもきれいで近隣の子どもは川で泳いでいました。さまざまな魚がとれましたが、特にハゼ釣りが盛んでたくさんの船が浮かんだようです。この頃、河口は太東崎の灯台側にありました。昭和20年に、作家の宮本百合子はこの木橋を和歌に詠んでいます。



よしきりのここだ来啼ける河口にかかる木橋は年古りにけり

昭和32年2月26日、木橋の下流側に鉄筋コンクリート橋が完成しました。延長は129m、幅約6mで総工費は約6千万円でした。

昭和47年には、下流側に側道橋が架設され、平成5年にも改修が施され現在にいたります。

昔ハゼ釣りの船が浮かんだ川は、ジェットスキーが大きな爆音を立てて行き交っています。



江東橋は、今後も国道128号線の重要な施設として役割を果たしていくことでしょう。

参考：『岬町史』岬町